



# 矛盾



楚人に楯と矛とを鬻ぐ者有り。

之を誉めて曰はく「吾が楯の堅きこと、能く陥す莫きなり」と。

又、其の矛を誉めて曰はく

「吾が矛の利なること、物に於いて陥さざる無きなり」と。

或るひと曰はく「子の矛を以つて、子の楯を陥さば何如」と。

其の人応ふる能はざるなり。

## 現代語訳

楚の国の人で、盾と矛を売っている人がいた。

(その人が)

この盾をほめて、「私のこの盾はとても堅くこれをつき通せるものはない」と言った。

また矛をほめて、「私のこの矛はとてもするどくどんなものでもつき通すことができる」と言った。

それをそこで見ていたある人が

「では、その矛でその盾を突いたらどうなるのか?」と尋ねた。

その売り人は答えることができなかった。

楚人↓楚の国の人

鬻ぐ↓売る

何如↓どのような

利なる↓するどい

子↓あなた

能はざる↓できない